

令和5年度（2023年度）4月入学生

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科

外国人研究生（留学生）募集要項

1 募集人員 若干名

2 出願資格

- (1) 希望指導教員と連絡をとり、事前の面談を行った者（P 2 4 入学者選抜方法）
 - (2) 外国人であって、次のいずれかに該当する者
 - ア 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または令和5年3月までに修了見込みの者
 - イ 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または令和5年3月までに修了見込みの者
 - ウ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者または令和5年3月までに授与見込みの者
 - エ 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、当該研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
 - オ 本学芸術工学研究科において個別の受験資格審査により、アと同等以上の学力があると認めた者で、令和5年3月31日までに22歳に達する者
- ※ 上記エまたはオにより出願しようとする者は、出願前に受験資格審査（P 5 14 出願資格エまたはオによる受験資格の審査について）を受けること。

3 出願期間及び方法

令和4年11月28日（月）～ 12月9日（金）〔必着〕

- ・ 郵送に限る。窓口受付は行わない。
- ・ 必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>を角型2号の封筒（自身で用意すること）に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送すること。
- ・ 期限までに到着しなかった場合は受理しない。（期間内消印有効ではないので注意すること。）
- ・ 出願書類を受理したときは、受験票、試験場案内等を送付する。ただし、令和4年12月23日（金）を過ぎても受験票等が届かない場合は、下記〔学生課入試係・芸術工学研究科担当〕に照会すること。
- ・ 卒業証明書・成績証明書等のうち再発行できないものについては、コピーの提出を認める。この場合、再発行できないものについては送付しないこと。ただし、合格者は入学手続き時に原本を持参すること。
- ・ 国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行うこと。国外からの郵送による出願は認めない。本学からの通知も代理人宛てに行う。

出願書類郵送先・入学等に関する照会先

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
名古屋市立大学 学生課入試係 芸術工学研究科担当
電話 052-853-8020
FAX 052-841-7428
E-mail shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp

4 入学者選抜方法

芸術工学研究科において、面接試験と出願書類に基づく選考を行う。

原則として各自で希望指導教員と連絡をとり、**面談**を行ったうえで出願書類を提出すること。

面談完了の期間は、募集要項が本学ウェブサイトに掲載された日から出願締切日の1週間前までとする。
それ以外の期間は受け付けない。

※国費・県費外国人留学生については、希望指導教員との**面談**を行わなくてもよい。

各教員の電子メールアドレスについては、大学院芸術工学研究科・芸術工学部オリジナルサイト「教員紹介」を参照すること。<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/teacher/>

(希望指導教員からの返信先を指定する場合は、返信希望のメールアドレス、電話番号などを明記すること。指定がない場合は、発信元のメールアドレスに返信する。)

5 出願書類等

書 類 等		摘 要
①	入学願書 写真票 受験票	【本学所定用紙様式1使用】 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼付すること。 受信場所は、確実に連絡がとれる所を記入すること。
②	履 歴 書	【本学所定用紙様式2使用】 学歴は、初等教育（小学校相当）から記入し、大学等の研究生、日本語学校等の在学歴および職歴があればそれらも記入すること。外国語で記入する場合は日本語訳を添付すること。
③	卒業証明書 (卒業見込証明書)	大学の卒業証明書（卒業見込証明書） ただし、大学院修了（見込）者は、その修了（見込）証明書を提出すること。 任意の様式により、日本語訳を必ず添付すること。証明書に直接書き込んで서는ならない。 コピーは不可。ただし外国の高等教育機関（大学等）で発行された証明書が再発行できないものについては、コピーの提出を認める。この場合、原本は送付しないこと。ただし合格者は入学手続き時に原本を持参すること。
④	成 績 証 明 書	大学の成績証明書 ただし、大学院修了（見込）者は、その成績証明書も提出すること。 任意の様式により、日本語訳を必ず添付すること。証明書に直接書き込んで서는ならない。 コピーは不可。ただし外国の高等教育機関（大学等）で発行された証明書が再発行できないものについては、コピーの提出を認める。この場合、原本は送付しないこと。ただし合格者は入学手続き時に原本を持参すること。
⑤	研 究 計 画 書	【本学所定用紙様式3使用】 手書きでなくてもよいが、必ず所定用紙を使用すること。 外国語で記入する場合は、日本語訳を必ず添付すること。
⑥	経 費 支 弁 書	【本学所定用紙様式4使用】 出願者にかわって在留中にかかる費用を支弁する場合は経費支弁書を提出すること。 ※国費等留学生は提出の必要はない。
⑦	経費支弁者の在職証明書および収入証明書 コピー不可	経費支弁書と併せて提出すること。 日本語訳を必ず添付すること。 ※国費等留学生は提出の必要はない。
⑧	経費支弁者と出願者との関係を証明する書類（戸口簿など） コピー不可	経費支弁書と併せて提出すること。 公証を受けたもの、日本語訳を必ず添付すること。 ※国費等留学生は提出の必要はない。

⑨	住民票 または パスポートの写し	<p>外国籍の者で在留資格がある者は提出のこと。 在留資格期間が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出すること。 国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出すること。 ※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得すること。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出すること。（在留の資格、期間、満了日や在留カード番号は省略しないこと。）</p>
⑩	入学検定料等 10,144円	<p>振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入の上、10,144円（入学検定料9,800円＋受験票等送付のための速達郵便料344円）を添えて銀行などで振込むこと。（ゆうちょ銀行では取り扱わない。またATM等は使わず必ず窓口で振込むこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振込手数料は志願者本人の負担となる。 ・銀行などから受け取った「検定料納付証明書（B票）」を他の出願書類と一緒に提出すること。 <p>※「振込金（兼手数料）受領書（A票）」は志願者が保管すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として既納の入学検定料は返還しない。ただし、以下の場合は、納入された入学検定料を返還するので、本学ウェブサイトを確認すること。 <ol style="list-style-type: none"> ①二重で振り込みをした場合 ②入学検定料等の振り込み後、出願書類を提出しなかった場合 （出願が受理されなかった場合も含む。）
⑪	あて名用シール	<p>【本学所定用紙使用】 返信先を明記すること。受験票等の送付及び合否の通知に使用するので、確実に受領できる住所・氏名を記入すること。</p>
⑫	出願書類提出用封筒	<p>出願書類提出用封筒の表紙＜本学所定＞に必要事項を記入すること。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛て郵送すること。</p>

※出願資格エまたはオにより受験資格審査（P 5 14 出願資格エまたはオによる受験資格の審査について）を経て出願する者は、この表に指定する書類のうち、受験資格審査時に提出したもの以外の書類を提出すること。

※ 本学で受け入れている国費外国人留学生は以下の条件を満たすもので以下の3つの選考方法のいずれかで採用された者とする。

【要件】

学部卒業程度以上で、日本の大学院において教育・研究指導を受ける者。留学期間は原則2年以内または大学院正規課程の標準修業年限以内。

【選考方法】

- 1 大使館推薦（海外にある在外日本国大使館等を通じて募集する）
※ 他大学の大学院に国費外国人留学生として在籍し、引き続き国費外国人留学生として本学大学院に出願する者は事前に相談すること。
- 2 大学推薦（日本国内の大学が主に大学間交流協定により海外の協定校から募集し、推薦する）
- 3 国内採用（日本国内の大学が在学する私費留学生を推薦する）

6 障がい等を有する入学志願者との事前相談

障がい等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、出願前までに必ず〔学生課入試係・芸術工学研究科担当〕（P1）まで申し出ること。

7 入学者選抜期日及び方法

試験期日	試験時間	試験科目
令和5年1月10日（火）	9：30～13：30	面接試験 (英語力をはかる質問含む)

8 入学許可発表

令和5年1月20日（金）発送で入学許可の可否を本人（国外の場合は代理人宛て）に郵便で通知する。

9 入学手続

(1) 手続期日

令和5年2月上旬予定（入学許可の通知で日にちを知らせる。）

(2) 手続方法

入学許可通知とあわせて詳細を本人または代理人に通知する。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料	名古屋市住民等	69,600 円（現行の額）
	その他の者	99,600 円（現行の額）
イ 学生教育研究災害傷害保険料		1,000 円（現行の額）

注1) 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が入学の日（4月1日）において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指す。

注2) 入学料等は入学手続時まで金融機関で納入すること。既納の納付金は返還しない。

注3) 上記は令和4年4月入学者の金額である。令和5年度については改めて通知する。

10 入国手続

(1) 入学期日(令和5年4月1日)までに正規の入国手続が完了しない場合は、入学許可を取り消すことがある。

(2) 入国手続きは原則として出願者が行うものとするが、不可能な場合、希望指導教員に相談すること。

11 授業料

年額 356,400 円（前期・後期分 各178,200 円）

注1) 授業料は、入学後、年2回（前期・後期）に分けて納めること。（口座引落）

注2) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用する。

注3) 必要な諸経費について別途徴収することがある。

12 注意事項

(1) 出願書類等に不備がある場合は、受理しない。

(2) 出願書類等に虚偽の記載をしたことが明らかになった者は、入学後であっても入学を取り消すことがある。

(3) 出願書類等は返還しない。

(4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係 芸術工学研究科担当〕（P1）に連絡すること。

13 在学期間

芸術工学研究科に外国人研究生として在籍できる期間は、原則1年とする。

14 出願資格エまたはオによる受験資格の審査について

出願資格エまたはオにより出願する者は、指定の期限までに、以下の書類を提出すること。また、これらを外国語で記入する場合は、日本語訳を添付すること。

国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行うこと。国外からの郵送による申請は認めない。本学からの通知も代理人宛てに行う。

なお、審査結果は審査終了後、速やかに本人又は代理人宛てに通知する。

書 類 等		摘 要
①	資格審査願	[本学所定用紙様式5使用]
②	業績書	[本学所定用紙様式6使用]
③	業績書に記載した内容を証明する書類	任意の様式で提出すること。
④	履歴書	[本学所定用紙様式2使用]
⑤	卒業証明書(卒業見込証明書)	最終学歴の卒業証明書(卒業見込証明書)を提出すること。
⑥	成績証明書	最終学歴の成績証明書を提出すること。

受験資格審査合格後、出願する場合は「履歴書」(本学所定用紙様式2)、「卒業証明書(卒業見込証明書)」及び「成績証明書」を再提出する必要はない。

・受験資格審査申請期間 令和4年11月7日(月)～令和4年11月17日(木)【必着】

※ 提出方法、提出先については、封筒の表に「芸術工学研究科外国人研究生(留学生)資格審査書類在中」と朱書きし、[学生課入試係 芸術工学研究科担当](P1)に、必ず書留速達で郵送すること。申請は郵送に限る。窓口受付は行わない。

15 緊急時における大学からのお知らせ

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイト等により周知するので、受験前は特に注意すること。

また、受験者本人へ直接連絡する場合があるので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を記入すること。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

16 個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱う。

(1) 個人情報の利用

ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務(出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等)を行うために使用する。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合がある。(調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行う。)

ウ 入学者の個人情報については、教務関係(学籍管理、修学指導等)、学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、授業料徴収に関する業務を行うために利用する。

(2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがある。

17 敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

新型コロナウイルス感染症の状況により、今後、入学者選抜期日及び方法が変更される場合がありますので、本学ウェブサイト「大学院入試に関するお知らせ」のページを随時ご確認ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/information/index.html>



別表 専任教員及び研究指導題目

関連領域	担当教員	研究指導題目 (研究指導テーマ)
情報環境デザイン領域	神沼 英里 准教授	人工知能(AI)を用いた持続可能な社会実現のための自動注釈研究。人間と AI の協働デザインの研究。
	栗原 康行 教授	映像制作全般についての指導を行う。個人映画・実験映画・劇映画・ドキュメンタリーなどの手法を問わない。
	小鷹 研理 准教授	生体情報処理やロボティクスに基づくメディアの知能デザイン手法に関する研究
	小林 桂 講師	インタラクションデザイン、情報デザインに関する研究
	作間 敏宏 教授 ※	現代美術、インスタレーションアートの研究と制作
	中川 隆 准教授	映像デザイン、メディア・アート、インタラクティブ・アートに関する研究
	埴 大 准教授	情報通信技術の応用に関する研究
	水野 みか子 教授	音楽理論、コンピュータ音楽、音楽学、作曲、音楽を含むインタラクティブ芸術
	横山 清子 教授	生体信号・動作データの処理と可視化、ヒューマンインタフェース評価
産業イノベーションデザイン領域	影山 友章 講師	プロダクトデザイン、GUI デザイン、「思考の余白」に関するデザイン研究
	影山 正幸 准教授	ファジイ理論を利用した芸術作品の評価方法
	加藤 大香士 准教授	医用福祉メカニズム、手術ロボティクス、人体の仕組みを活かすデザイン、人と人工物とのインタラクションデザイン
	高橋 信雄 教授	コンピュータを用いた画像・映像・音声の研究および制作
	辻村 誠一 教授	視覚科学、医工学応用、心理量測定、最適な光環境の構築
	裨 菲尔冯ア 准教授	グラフィックデザイン・自発的なグラフィックデザイン・デザインとアートの境界・デザインと社会の関係の研究および制作
	松本 貴裕 教授	量子ナノ構造、半導体発光素子、超短パルスレーザを用いた電子・光回路の研究および新規デバイスデザイン
森 旬子 教授	グラフィックデザイン・視覚環境デザインの研究および制作	
建築都市領域	青木 孝義 教授	既存ストックや建築遺産の調査診断技術、構造ヘルスマモニタリングと安全性評価、保存と活用
	伊藤 恭行 教授	都市や集落を対象とした調査・研究、設計コンペへの積極的な参加
	大野 暁彦 准教授	ランドスケープデザイン、庭園デザイン、景観デザインなどの設計と調査・研究
	角 哲 准教授	歴史や文化、産業、思想、計画技術に着目した都市と建築に関する研究
	木村 俊明 講師	シェル構造の構造計画と設計、構造最適化を用いた設計手法の開発とその応用、建築構造デザインに関する研究
	久野 紀光 准教授	アーバンリサーチ、既存空間の意匠論的再解釈、建築・都市空間の設計・提案
	佐藤 泰 講師	環境心理・環境行動研究、特に人間の心理・認知の視点も考慮した、オフィス内外の「働く場」における集中/交流/休憩空間の提案
	志田 弘二 教授 ※	安全設計、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン、医療福祉施設設計
	鈴木 賢一 教授 ※	学校建築、街づくり、設計プロセス、子どもの療養環境、市民参加
	原田 昌幸 教授	建築環境や都市環境と人の心理や行動との関係の研究、環境負荷や省エネルギーの研究
	溝口 正人 教授	歴史的な建築・都市・集落の生成過程と意匠や空間の特質、歴史を活かしたまちづくりの研究
	向口 武志 准教授	都市・農村および都市計画の史的な調査・研究、建築・都市の設計
	尹 奎英 准教授	空調システムのライフサイクルエネルギーマネジメント、自然・未利用エネルギー利用、パッシブ建築設計手法に関する研究

注1) ※印がついた担当教員は、指導教員として選択することができない。